

令和 5 年 5 月 30 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00937

研究課題名（和文）近代北海道におけるアイヌ民族と地域社会 有珠郡・幌別郡を中心に

研究課題名（英文）The Ainu and Immigrant communities in 19th century

研究代表者

檜皮 瑞樹 (HIWA, MIZUKI)

千葉大学・大学院人文科学研究院・准教授

研究者番号：00454124

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：19世紀における北海道開拓移民と先住者アイヌ民族を含む地域社会形成という課題に対して、明治初年の仙台藩関係者の有珠郡・幌別郡への移住のケースを分析対象とし、田村顕允関係文書（個人所蔵）の目録化、鎌田新三郎関係文書（壮瞥町教育委員会所蔵）、志賀家文書・渡辺家文書（巨理町所蔵）の整理作業、「人々の移動と接触・交流」をテーマとした学会企画・シンポジウム等での研究報告を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年の歴史学では人の移動による交流とコンフリクト、あるいは社会形成に関する関心が高まっている。その背景には、グローバル化と排他主義という矛盾した社会状況と、その克服という社会的課題が存在することはいうまでもない。本研究課題は、このような社会史的課題に歴史研究の立場から応答すべく多くの研究成果を発表した。

研究成果の概要（英文）：The theme of this study is The Ainu and Immigrant communities in 19th century. Specifically, migrants from the Tohoku region to Usu and Horobetsu counties were included in the analysis. The outcome is cataloguing of documents related to Tamura Akimasa, documents related to Kamata Shinzaburo, documents relating to Watari towns such as Shiga and Watanabe. Furthermore, I reported at a conference workshop on the topic of exchanges and conflicts caused by migration.

研究分野：歴史学

キーワード：日本史 北海道開拓 アイヌ民族 武家家臣団 移民史

## 1. 研究開始当初の背景

19世紀の北海道開拓をめぐる研究史は、明治初期の武家家臣団を中心とした集団移住のケース（亙理伊達家・岩出山伊達家・片倉家・稲田家など）、及び明治20年代以降の徳島や香川からの民間移住者のケースを中心に研究が蓄積されてきた。一方、近代北海道におけるアイヌ史研究は、土地所有権をめぐる不均衡や伝統的生業・文化の否定など、アイヌ民族に対する和人社会の迫害・差別の実態が明らかにされる一方で、アイヌ民族の主体的営為に関する歴史的考察は18世紀以前に集中しており、近代以降については、谷本晃久による“自分稼ぎ”論（『近代アイヌ史』黒川みどり編『部落史研究からの発信』部落解放・人権研究所、2009）や小川正人の研究業績（『近代アイヌ教育制度史研究』北海道大学図書刊行会、1997）、マーク・ウィンチェスターによる近年の研究成果（岡和田晃・マーク・ウィンチェスター編『アイヌ民族否定論に抗する』河出書房新社、2015）を除けばほとんど明らかにされていないのが実状であった。もちろん、移住和人とアイヌ民族とは歴史的に加害／被害の関係にあったことは事実であり、そのことから目を背けることは許されない。しかし、近代の北海道において両者は非対称的な関係を基盤としながらも地域社会を形成してきたことも事実である。両者の社会的（歴史的）な非対称性を前提としたうえで、両者の関係史を叙述することが何よりも求められていた。安易な多文化主義ではなく、異文化接触は不可避に経験する軋轢を踏まえながら、社会的コンフリクトを直視したうえでその克服への道程を模索されなければならないという研究史における背景が存在した。

## 2. 研究の目的

(1)19世紀後半における和人移住者による地域社会形成と先住者・アイヌ民族との関わりについて歴史的な考察を行う。この点に関しては資料的制約が大きいと、基礎的な資料の発掘・調査・整理が不可欠となる。特に、移住者自身に関する資料の調査・整理が急務であり、移住者が移住後に形成した資料群のみならず、出身地に残存する資料の調査も並行して実施することで研究史上の問題点を克服することを目的とする。

(2)北海道への集団移住史研究が大規模な武家家臣団を中心に進められた結果、中規模な非武士移住者の研究が立ち遅れている点の克服。特に明治20年代以降の民間移住に関しては、移住者の出身地における自治体史研究において多くの研究成果が蓄積されてきた反面で、個々の事例を比較・検討する視座が大きく欠如していた。そのため、自治体史による成果の横断的な分析・検討を行うことで、それぞれの地域で完結した自己満足的な“開拓物語”を克服することを目的とする。

## 3. 研究の方法

(1)研究テーマである北海道有珠郡・幌別郡への開拓移住者に関する地域資料の調査を、北海道立文書館を中心に実施する。並行して個人が所蔵する資料の調査・整理を研究分担者である伊達市噴火湾文化研究所・伊達元成氏、及び研究協力者である登別市郷土資料館・平塚理子氏の協力をえて実施する。

(2)移住者（移住団体）に関する資料調査を、①仙台藩士に関する資料調査を亙理町郷土博物館や岩出山有備館等で、②香川県旧三豊郡を中心とした四国からの移住者に関する資料調査を三豊市文書館、徳島県立文書館、香川県立文書館など、で実施する。

(3)研究テーマである北海道開拓移住と地域社会形成に関する共同研究を実施する。また、当該テーマに関する研究成果を発表する。

## 4. 研究成果

2020年度以降はコロナ感染症拡大によって北海道を中心とした現地での史料調査の実施が困難な状況下でありながらも、補助事業期間を通じて以下の成果を挙げる事ができた。

(1)有珠郡・幌別郡の移住者関係資料の調査

・田村顕允関係文書

有珠郡への移住団体である亙理伊達家の家老をつとめ、有珠郡移住に際しての世話人であった田村顕允関係文書の調査・整理作業を実施した。2019年8月に、だて歴史文化ミュージアムで「田村顕允関係文書」の撮影及び印刷資料の拓本化作業を実施した。

2021年度には、田村家文書の目録作成作業、特に写真関係資料の整理作業を研究協力者・伊藤静香及び清水詩織を中心に実施した。また、田村家文書目録作成にあつて、仮目録の校正作業及び難読箇所を、研究代表者・檜皮瑞樹、研究分担者・黒田格男、研究協力者・工藤航平及び三野行徳が分担して担当した。

2022年9月に、亙理伊達家菩提寺の大雄寺（北海道伊達市内）において、田村家文書の目録

化に向けての最終確認作業を実施した。

・移住武家家臣団資料

2020年10月に、だて歴史文化ミュージアムにおいて「亙理世家家譜略記」「亙理伊達家家中分限帳」の撮影調査を実施した。

2022年9月に、大雄寺が所蔵する佐藤家文書（亙理伊達家家臣団家）の整理作業、及び史料の翻刻作業に関して「いろはの会」（伊達市の郷土史学習サークル）との勉強会を実施した。あわせて、分担者黒田格男を中心に、大雄寺所蔵の白土家資料、萱場家資料の整理方針についての会議を実施した。

・有珠郡、幌別郡の行政資料

2019年2月に、有珠郡関係文書（有珠郡・虻田郡引継書、製糖所関係資料等）の調査を北海道立文書館で、岩田文庫（明治初年の北海道布教関係資料）の調査を浄土真宗大谷派北海道教務所で実施した。北海道立文書館での調査は、2019年2月、2020年10月及び2023年2月にも実施した。

(2)移住者の出身地での資料調査

・亙理町関係

2019年1月に、宮城県亙理町で亙理伊達家の北海道への移住に際して現地亙理に残留し北海道開拓移住武士団との連絡・調整役を務めた志賀忠雄に関する資料調査（亙理町所蔵志賀家文書）の調査を実施した。志賀家資料の一部は、研究代表者・檜皮が後述する学会発表、及び学術論文にその成果を反映した。

2023年2月には、亙理町郷土資料館において、同館所蔵渡辺家文書の再整理作業、具体的には町史編纂作業時における紐綴りの解体、及び目録作成に向けての予備作業を実施した。

・四国団体関係

2018年8月に、伊達市噴火湾研究所において、鎌田新三郎関係文書（壮瞥町教育委員会所蔵）の粗整理作業（史料群毎の封筒詰め作業、仮IDの付与と階層化準備作業）等を実施した。鎌田新三郎は徳島からの移住団体である仁木団体から分離して壮瞥町へ移住した団体の中心人物である。鎌田新三郎関係文書の整理作業は、2019年2月にも実施した。

(3)共同研究の成果発表

2019年度以降、歴史学研究においては人の移動と接触・交流をテーマにした多くの研究会・シンポジウムが開催された。研究代表者・分担者はこのような研究会・シンポジウムに参加すると共に、研究成果の発表に努めた。

・2019年5月26日に開催された歴史学研究会大会（近代史部会・移動する人びとの「地域」－帰属意識のゆらぎ－）において、研究代表者・檜皮が「明治初年の北海道移住と在地社会－胆振国有珠郡を中心に－」というテーマでの研究報告を行った。その成果は、2019年10月刊行の『歴史学研究』989号に掲載した。

・2020年12月12日に開催された第20回日韓歴史家会議（テーマ「越境をめぐる歴史」）において、研究代表者・檜皮が「19世紀の東北諸藩と北海道開拓移住」というテーマでの研究報告を行った。その成果は、2021年3月刊行の『越境をめぐる歴史』（日韓文化交流基金）に掲載した。

・2022年12月18日に開催された民衆史研究会シンポジウム（テーマ「制限のなかの移動・移住と共生」）において、研究代表者・檜皮が「越境する主体と共同体」というテーマでの研究コメントを行った。

また、研究成果の社会発信についても多くの取り組みを行なった。代表者・檜皮及び分担者・久留島浩は、伊達市が編纂した『北の大地と生きる・海を渡った亙理伊達家臣団』（2019年4月刊行）に監修として加わり、本課題の研究成果をもとに編集作業や執筆者への助言を行なった。また、研究協力者・工藤航平は、2019年10月に開催された亙理町町民講座「ものしり大学院」において、「海を渡った亙理伊達家中の文書」という題目での招待講演を行なった。あわせて、フィールド対象である北海道伊達市の郷土史・古文書学習サークルである「いろはの会」との勉強会を実施するなど、調査・研究の成果を広く還元すべく活動した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 檜皮瑞樹	4. 巻 1021
2. 論文標題 「1641年反乱の証言録収取」公開プロジェクト (the 1641 Depositions) と歴史研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 43-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 檜皮瑞樹	4. 巻 125
2. 論文標題 明治初年の北海道開拓移住；有珠郡を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Arctic Circle (北海道立北方民族博物館友の会・季刊誌「アークティック・サークル」)	6. 最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 檜皮瑞樹	4. 巻 723
2. 論文標題 書評 岩崎奈緒子著『近世後期の世界認識と鎖国』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 53-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 檜皮瑞樹	4. 巻 34
2. 論文標題 歴史資料の非対称性と歴史研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アーカイブズ学研究	6. 最初と最後の頁 40-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久留島浩	4. 巻 86・87
2. 論文標題 「歴史と向き合う」ということ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 宮城歴史科学研究	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 檜皮瑞樹	4. 巻 857
2. 論文標題 紹介 谷本晃久著『近世蝦夷地在地社会の研究』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 107-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久留島浩	4. 巻 2020-4
2. 論文標題 遺跡を尋ねて 第 期(第4回)出島と長崎奉行所跡 長崎の遺跡歩き	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学士会会報	6. 最初と最後の頁 80-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 檜皮瑞樹	4. 巻 989
2. 論文標題 明治初年の北海道移住と在地社会 - 胆振国有珠郡を中心に -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 116-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊達元成	4. 巻 54-8
2. 論文標題 市民参加・市民参画のもとでの新たな博物館づくり (特集 地域に根ざす博物館)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 博物館研究	6. 最初と最後の頁 18-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊達元成	4. 巻 69-6
2. 論文標題 全国歴史民俗系博物館協議会 全国歴史民俗系博物館協議会北海道総会参加報告	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地方史研究	6. 最初と最後の頁 64-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久留島浩	4. 巻 278
2. 論文標題 尾崎真理「近世中後期における幕府の代官配置原則」について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ヒストリア	6. 最初と最後の頁 76-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 檜皮瑞樹
2. 発表標題 越境する主体と共同体 (コメント)
3. 学会等名 民衆史研究会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 久留島浩
2. 発表標題 シンポジウム「旗本研究のこれまでとこれから 埼玉から旗本を考える」(コメント)
3. 学会等名 関東近世史研究会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 檜皮瑞樹
2. 発表標題 歴史資料の非対称性と歴史研究
3. 学会等名 日本アーカイブズ学会2020年度大会(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 檜皮瑞樹
2. 発表標題 19世紀の東北諸藩と北海道開拓移住
3. 学会等名 第20回日韓歴史家会議(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 檜皮瑞樹
2. 発表標題 明治初年の北海道移住と在地社会 - 胆振国有珠郡を中心に -
3. 学会等名 歴史学研究会2019年度大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 檜皮瑞樹
2. 発表標題 旭川で「北海道」命名150年を考える
3. 学会等名 浄土真宗大谷派旭川別院公開研修会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊達元成
2. 発表標題 伊達市と黒松内町のつながり
3. 学会等名 黒松内町歴史講演会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊達元成
2. 発表標題 伊達市の歴史
3. 学会等名 伊達ロータリークラブ例会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 久留島浩	4. 発行年 2022年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 211
3. 書名 洗う 文化史：「きれい」とは何か	



1. 著者名 檜皮瑞樹	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日韓文化交流基金	5. 総ページ数 189
3. 書名 越境をめぐる歴史（分担執筆；明治初期北海道開拓移住と東北諸藩）	

1. 著者名 巨理町史編纂委員会（編集協力）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 巨理町	5. 総ページ数 276
3. 書名 巨理町史資料編第2集・二階堂家休屋敷襖下張文書	

1. 著者名 岩城卓二，高木博志編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数 194
3. 書名 博物館と文化財の危機	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	久留島 浩  (KURUSHIMA HIROSHI)  (30161772)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・特任教授   (62501)	
研究分担者	伊達 元成  (DATE MOTOSHIGE)  (70620897)	伊達市噴火湾文化研究所・その他部局等・学芸員   (80123)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	黒田 格男  (KURODA NORIO)  (60885432)	伊達市噴火湾文化研究所・その他部局等・学芸員    (80123)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	工藤 航平  (KUDO KOUHEI)		
研究協力者	清水 詩織  (SHIMIZU SHIORI)		
研究協力者	伊藤 静香  (ITO SHIZUKA)		
研究協力者	石田 七奈子  (ISHIDA NANAKO)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関